

分野別講座「課題のある子の学力づくり」

参加者 四十六名

まとめ 岡篤

提案 岸本 ひとみ

分析と事例研究の一学期を

チェックシートをラミネートし、常に手元においておく。職員室まで持ち越さずに教室で記録する。その際、視点はクールに態度は熱くということを意識している。

タイプ別対応

多動の子には、まず物理的な問題を解消する。教師の目の前の離席しにくい席にしたり、壁際の最前列に見えるものを減らしたりといったことを配慮する。

すぐに忘れてしまう子もいる（紙芝居記憶）ので、百回言うつもりで声をかけつつける。

自閉症スペクトラムの子には、まずこだわりを認めるようにする。逃げ場の確認もする。図書室の机の下にいつも隠れる子や掃除ロッカーが好きな子もいる。教室にそ

の子用の掃除ロッカーを置くということも考えられる。授業に入らずに廊下で固まっている子にタイマーを渡し「授業にもどれるまで」何分いりますか?といった声かけもする。

授業中での配慮

目標を固定し、めあてとゴールがはつきりしている展開を心がけている。特に社会科では視覚に訴えることもしている。教育課程から多少はずれても、基本をきちんと指導しておけば、保護者の理解も得られる。読み書き計算の習熟がポイントである。

一〜三年生の間に保護者に事実を伝え、本人にも自分の苦手なことを理解させる。自己肯定感を育み、自分を好きになれないと二次障害に結びつきかねない。

分野別講座「どの子も楽しくどんどん表現できるように」

参加者 十六名

まとめ

鈴木 可純

〇子どもの表現があふれる教室を

●提案 木島 由紀子

印象に残った言葉。それは「私は学級づくり、学力づくりの一環として、図工指導をしています。」の一言。

参考作品として、掲示いただいた作品の中に、握手をしている線描の作品があった。お話しを伺うと、これは男女が握手をしているとのこと。まさに、図工で学級づくりである。また、「先生方の学級では、子どもたちが下手、上手に関わらず、のびのびと表現を楽しんでいますか。」の投げかけがあった。音読や発表と同じで、図工での表現も安心して学校生活を送ることができる空気が、学級に流れているかという点が大切であることを再確認した。

線描で大切にしたい

4つのポイント

- ① ゆっくり
- ② 一度きり（消さない・なぞらない）
- ③ 始めと終わりは特に丁寧にする
- ④ できるだけ続ける

「ゆっくり描きましょう。」と子どもに呼びかけるだけでは、十分ではない。どれくらいがゆっくりなのか、具体的に伝えなければいけない。例えば、こんな方法である。画用紙の端と端に点を打ち、その間を十秒で結ぶのである。点と点の感覚を狭くしながら、ゆっくりの感覚をつかませるといい。

自分の思いを思うように表現できないでいる子は、ものの形が見えていないことが多い。ものを見る目を育てるために、カタクチイワシを線描で描く体験をした。分解し虫眼鏡で観察した前後で、見事に、イワシの線描が変化した。しっかりと対象物を見ることが、線描が大きく生き生きとすることができた。